



<https://printo.it/pediatric-rheumatology/JP/intro>

薬物療法

版 2016

12. ミコフェノール酸モフェチル

12.1 性状

ある種の小児リウマチ性疾患では免疫の一部が過剰に活性化されています。ミコフェノール酸モフェチルはBリンパ球およびTリンパ球(免疫担当白血球)の増殖を阻害します。つまり、本薬はある種の免疫活性細胞の発達速度を低下させます。したがって、本薬の効果はこの阻害によるものであり数週間後に効き始めます。

12.2 投与用量、投与経路

ミコフェノール酸モフェチルは錠剤または溶液用の粉末として1日1～3gを投与します。食事摂取は本薬の吸収を低下させるので、本薬は食間に服用するように推奨されています。飲み忘れた場合、次の投与機会に2回分を服用すべきではありません。本製品は密閉して元々のパッケージに保存してください。理想的には、同一日の異なる時間に数回血液を採取し薬物濃度を測定すべきです。これによって各患者における適切な用量調整が可能になります。

12.3 副作用

最も一般的な副作用は腹部不快感であり、10～30%の患者において特に治療開始時にみられます。下痢、嘔気、嘔吐あるいは便秘が起こることがあります。これらの症状が持続する場合には、用量低減あるいは同種製品(myfortic、ミコフェノール酸ナトリウム)への変更も考慮されます。本薬は白血球や血小板の減少をもたらす可能性があるため、毎月検査すべきです。これらの血球減少が起こった場合には一時休薬すべきです。

本薬は感染リスクを増加する可能性があります。免疫系を抑制する薬剤は生ワクチンに対する異常反応を起こすことがあります。したがって、あなたの子どもさんに生ワクチン(例えば、麻疹ワクチン)を接種すべきではありません。ワクチン接種する前や海外へ旅行する前には医師に相談してください。ミコフェノール酸モフェチルで治療中は妊娠を避けるべきです。起こりうる副作用を発見しそれに対応するために、毎月の定期的な診療および血液や尿の検査が必要です。

12.4 主要な小児リウマチ性疾患適応症

若年性全身性エリテマトーデス